令和７年度　江戸川区立平井南小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	体をきたえ　心をひらいて　みずから学ぶ子 体をきたえ　心をひらいて　なかよく助け合う子 体をきたえ　心をひらいて　みらいへたくましく進む子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	児童、 教職員、地域にとって行きがいのある学校 自ら学び、友達と仲よく、目標をもって粘り強く努力し、元気に生活しようとする児童 教育の専門職としての自信と誇りをもち、熱意をもって職務や自己研さんに励み、児童・保護者・地域等から敬愛され信頼される教師
前年度までの本校の現状	成果	○「共生社会の実現に向けた教育の推進」について、校内外の組織や関係諸機関等との連携や校内研究を核とした取組を充実させることができた。 ○「特色ある教育の展開」について、異学年集団活動の推進や充実を図ることで、自他を思いやる心を育成することができた。	課題	●「学力の向上」について、基礎的・基本的な内容の定着に資する指導や教材等を含む教育環境等の整備の充実を推進していく。 ●「体力の向上」について、休み時間の時間帯を活用した「いきいきタイム」の活動内容の充実や評価方法の工夫などを推進していく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「江戸川っ子study week!」の取組を核とした基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての取組の推進 ・授業におけるＩＣＴの活用の促進	・「東京ベーシック・ドリル『診断シート』」等を活用した基礎的・基本的な内容の定着度の把握を年２回実施し、平均正答率を７割以上にする。 ・１日２単位時間以上授業でＩＣＴを活用している教員を80%以上にする。											
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科推進研修の実施（年１回以上） ・「江戸川っ子　読書科コンクール」に向けた取組の推進 ・団体貸出による学級文庫の充実と授業への活用（月１回） ・巡回司書（隔週）とＳＳＳ（毎日）による蔵書管理や配架、図書室及び閲覧室の環境整備	・「読書科ノート」を活用した調べ学習等の取組を各学年年２回以上実施する。 ・児童一人当たりの年間平均図書貸出数を20冊以上にする。 ・「江戸川っ子　読書科コンクール」に向け、冬季休業期間に課題を設定するなど、図書を活用した学習に主体的に取り組む素地を養う。											
体力向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・休み時間の時間帯を活用した「運動遊び」による体力及び運動意欲の向上	・毎月曜日の20分休みの時間帯を活用した学期ごとに設定する「運動遊び」（いきいきタイム）の実施（年30回程度）。 ・「運動遊び」充実のための校内研修会の実施（年３回程度） ・校内OJTにおいて、運動にすすんで取り組むための具体的な手だてを交流する機会を学期に１回ずつ実施する。	・児童対象の意識調査を年１回実施し、体力の向上の取組に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。											
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育コーディネーターの複数配置、校内相談会の開催による対応組織の整備 ・エンカレッジルームや保健室を活用したやむを得ず教室に登校できない児童等の居場所の確保 ・各種便りの交換（月１回）及び、対象児童の実態や受け入れ条件等に応じた共同学習の検討 ・ＳＣ勤務日を活用した情報共有の機会の確保（年38回）	・教員対象の意識調査で特別支援教育に対する満足度を80%以上にする。 ・保護者対象の意識調査において、教育相談に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。											
不登校・いじめ対応の充実	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	・児童の問題行動等の未然防止や早期発見、対応方法の共有等を図るための生活指導会議を開催（週１回） ・「ふれあい月間」の取組を核とした児童の問題行動等の未然防止、早期発見、組織的な早期対応 ・ＳＳＷの積極的活用による児童や保護者に寄り添った支援の充実 ・「hyper-QU」の調査結果の共有や分析に基づく指導等の充実	・保護者対象の意識調査において、児童の問題行動等への対応に関する質問項目での肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ・人間関係による欠席が３日続いた時点でいじめ対策委員会を招集し速やかな対応を検討する。また、いじめが認知された場合は、３か月以内の100%解消を目指す。											

地域社会に開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・各学期中週１回以上「学校ホームページ」の更新を行い、情報発信の充実。 ・必要な連絡や児童の様子等についてＩＣＴを積極的に活用し、情報の共有や教育活動への活用。	・保護者対象の意識調査において、学校の情報発信に対する満足度を80%以上にする。												
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校関係者評価委員（学校評議員）による参観機会等の確保や情報発信の充実に努めて、適正で適切な評価の実施。 ・評価結果について「学校ホームページ」上に公開し、保護者や地域に開かれた学校運営の実現。	・「運動会」「文化的行事」「学校公開」を活用した参観の機会を年５回設定する。 ・各学期中週１回以上「学校ホームページ」の更新を行い、情報発信の充実を図る。（再掲）												
特色ある教育の展開	心の教育の充実 ・異学年集団活動による自他を思いやる心の育成	・異学年集団による定期的な「ふれあい班活動」や年１回の全校遠足の実施	・保護者対象の意識調査において、異学年集団活動に対する満足度を80%以上にする。												
	連携・協働による教育の推進 ・「学校応援団」による「読み語り」や地域の人材や環境を活用した教育の推進	・朝の時間帯を活用した「読み語り」の実施（年１１回） ・旧中川や地域の施設を活用した「地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域と学ぶ」教育の推進	・保護者対象の意識調査において、連携・協働による教育の推進に対する満足度を80%以上にする。												